

滿蒙ノまたたび (其三)

高 橋 基 生

M. TAKAHASHI: Stories and gossips in my journey
through Manchoukuo (III)

鳳凰山モ、朝陽側ノ斜面ニハ殆ド木ラシイモノハ見當ラナイ。但シ山麓ノ小村附近ニハ山中ヨリ移植シタトイフ滿洲黒松ノ疎林ガ一箇所アルシ、又大凌河ベリニハ熱河柳ノ立並木ガアル故ニ、コレ等ノ除外例ハ認メナケレバナラナイ。「衣食足ツテ禮節ヲ知り、森林アツテ山容全シ」ト言ヘバ何ダカ對句メクガ、兎ニ角木ノ無い山程慘メナモノハナイ。一度豪雨ニ見舞ハレタガ最後、山膚ハ有無ヲ言ハセズ洗ヒ取ラレテ、山骨モ露ハニ荒レスサビ、徒ニ朔北ノ弦月ヲ宿スニフサワシクナルノミデアル。實際鳳凰山ノ朝陽側ヲ山腹ヨリ見渡スト、地ヲ刻ンデ無數ノ地隙ガ發達シ、下手ニ此ノ中ニデモ迷ヒ込モウモノナラ、溝ニハマツタ棄猫ノ

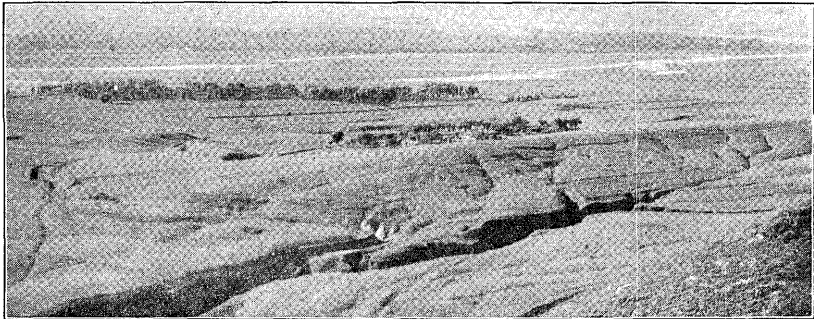


Fig. 33. 縦横ニ走る地隙ト白々ト還ザカル大凌河ノ流 (著者撮影)

ヤウニ、イツカナ這ヒ上リ術モナイ。併シコンナ地隙ノ底ニモ造化ノ神ノ觸手ハ行キ届イテキルモノデわうごんノ黄金色ノ花瓣ガコボレ、ほそばひめはぎガ有ルカ無シカノ風ニ、ユラ揺レテ、登路ニ迷フ憂キ人ノ身ヲナグサメテクレル。成程山吹ノ一枝ニモ雨ヲ忘レ得ル心境ガ時ニハ俗人ニモ許ルサレルラシイ。もうこかたひばノ絨氈地ニおほ

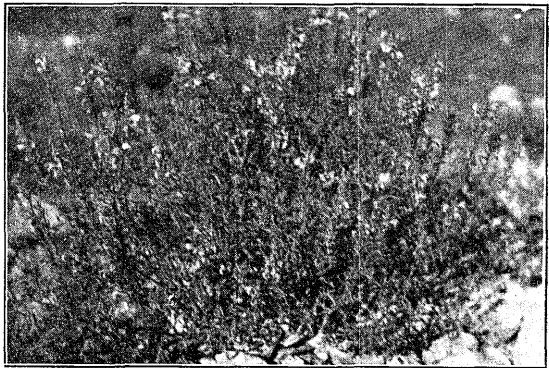


Fig. 34. 地隙ノ底ニ笑フわうごんノ黄金花 (著者撮影)

しゆうさうノ穂咲キノ花々ヲ浮キ出サセタ斜面ヲ過ギテ愈々岩場ニカ、ルト、はないんちんらうげノイトモ萬タキ姿ガサシ招イテキル。ヤガテ大凌河ノ流レガ白ムト遠ノイテ行クノガ手ニ取ル如クニ展開スル頃ニハ、氣ノ速イ護衛兵達ハモウ頂上ノ喇嘛塔ヲ圍ンデ萬歳ヲ連呼シテキル。人間トイフ奴ハ小供ノ頃カラオ山ノ大將ガ好キト見エテ、高イ處ヘ

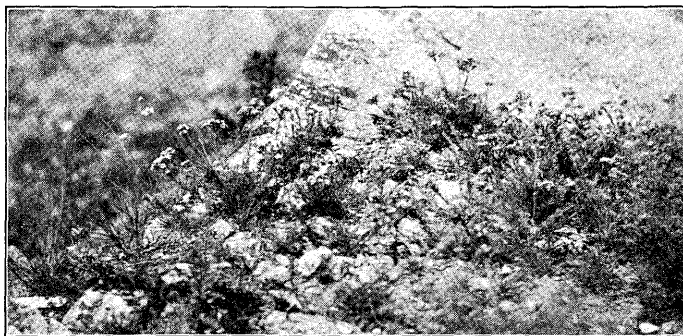


Fig. 35. 岩場ニ微笑ムはないんちんらうげ（著者撮影）

登ルト、又シテモ童心？ニ還元スルラシイ。只遅レ馳セニ行クト、先ノ萬歳ガ少々癢ニサワルノハ人情トイフモノカモシレナイ。

小院ノ裾ヲ廻ツテ第二ノ喇嘛塔ヲ眺メ乍ラ腰ヲ据エルト、手頃ナまうこぐわトしなのきノ一種トガ兩袖ヲ限ツテ、程良ク烈日ヲ遮ツテクレル。本院ニ立チ寄ツテ瓢半截ノ容器ニ盛ツタ飲料水ヲ無心ニ汲ンデ、ホット一息ツイタガ、コノ水ガ三四百米モノ下カラ掬ミ上ゲテ來タト聞イテ、何ダカ氣ノ毒ナ氣モシタ。歸リニハ別道ヲ撰ンデ裏參道ニ出ルト、コレハシタ

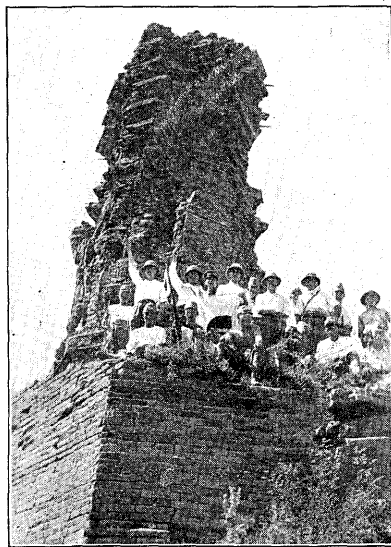


Fig. 36. 半壞喇嘛塔ヲ登ニ萬歳ヲ連呼スル童心ノ持主（著者撮影）

リ、又何タルコトカ、大ゲサニ言フト大森林ガ枝ヲ交ヘテキル。トハ言ヘコレ位ノ林ハ内地等デハマルデ問題ニスルニモ足ラヌノデアルガ、禿山ノ熱河ニ於テハ確カニ見付ケ物ノ一タルヲ失ハナイ。併モ木ト言ヘバ、熱河柳、どろのき、のにれ位ニ相場ガキマツテキタ筈ノ地ニこのてがしわ、もんどりなら、しべりやあんづ、ちやうせんとねりこ、もうこぐわ、まんしゆういたや等ノ喬灌木ヲ見タコトハ望外ノ嬉ビニ違ヒナイ。

滿洲ノ夏ノ日ハ未ダ高イガ、難物ノ徒渉ヲ控ヘテキルノデ、急ギ足ニ山ヲ下ルコトニナツタ。河原ヘ出ル道スガラ「ファブル」ノ昆蟲記デオ馴染ノたまころがしが所々ニ、文字通りノ黒山ヲ築イテキル。杖デツ、イテ追ヒ拂フト、其ノ下カラ必ズ馬糞カ、牛糞乃至ハ人糞ガ現ハレテ來ル。コノ蟲ハ一名馬糞ころがし、トモ言ハレ、

數十數百トナク汚物＝蛆集シテ、其ノ一端ヲ適當＝切り離シテハ、玉ト轉シ乍ラ巢＝持ち歸ルノデアル。少々臭イ見物デハアルガ、何トカイフ文人ガ東海ノ磯邊ニ泣キ濡レテ、小蟹＝戯レタヨリハ確カ＝興味ガアルデアラウ。コノ蟲ヲ大島一帯ニデモ繁殖サセテ、遊び相手＝困ツタ人々ノ御覽＝入レタナラバ、或ハ三原山ノ御繁昌モ何割カハ緩和サレヌトモ限ラナイデアラウ。筆者ハ別＝胸ガ痛ムトイフノデハナイガ、珍ラシイマ、ニ暫ク見入ツテキタガ、其ノ千變萬化ナ動作ニハ限リナイ愛嬌ガアル。或ハ足＝踏ミ、手玉＝執ツテ扱フナド、下手ナ田舎廻リノ「サーカス」ヨリハ餘程面白い。一々裏返シテ見タ譯デモナイノ

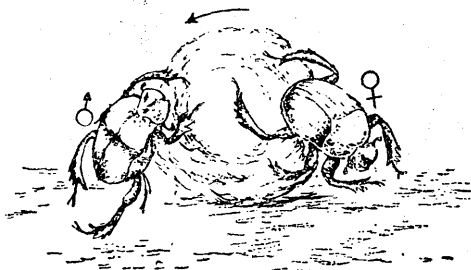


Fig. 37. 馬糞ヲ運ブたまころがし (某氏原圖)



Fig. 38. しやこニ近イ甲殻類トしじみが
ひノ化石 (島田氏原圖)

デ、眞偽ノ程ハ保證ノ限リデハナイガ、或ル本ニハカウ書イテアル。「糞ヲ丸メテ直徑 2 cm 位ノ玉ヲ作り、2 匹デ地面ヲ轉ジテ行クガ、内一匹ハ逆立チニナツテ玉ヲ押シ、他ノ一匹ハブラ下ガル様ニシテ玉ヲ引ク。コノ押し手ノ方ガ雌デ、引き手ノ方ガ雄ダソウデアル。然モ適當ナ場所迄來ルト雄ハ玉ノ上ニ乗ツテ見張り、雌ハ孔ヲ掘ツテ玉ト一緒ニソノ中ニ埋没スル。翌年卵ガ孵化シテ幼蟲ニナレバ、周圍ノ糞ヲ食ツテ生長スル」ト。

朝陽デノ最終日ハ約一里半東方ニアタル新黄家地ヘ化石採集ニ出カケタ。近ク開通スル朝陽線ノ鐵橋ヲ吾ガ物顔ニ大手ヲ振ツテ渡ツタト申シ上ゲタイノデアルガ、風ノ吹ク度毎ニ

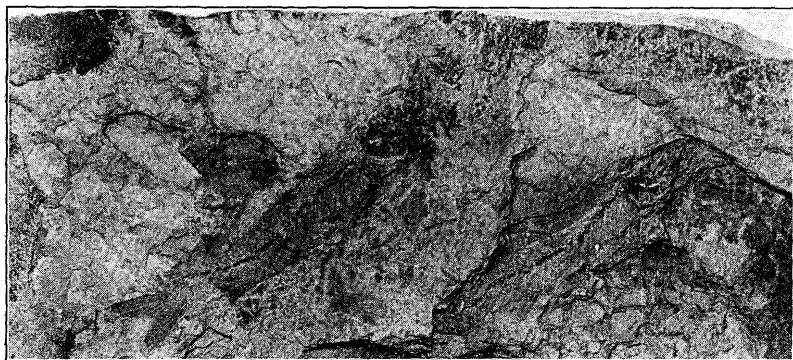


Fig. 39. *Lycoptera* (化石魚ノ一種)ノ化石 (著者原圖)

二ノ足ヲ踏ミテ漸ク渡リ切ツタ事ハ知ル人ゾ知ルデアル。中デモ御念ノ入ツタ人ハ採集用ノ「ハンマー」ヲ橋下ニ落シテ取リニ戻ル等ノ珍藝サヘ演ジテキル。昔カラ「旅ノ恥ハ搔キ棄テ」トイツテ、コレヲ後ヘ廻ツテ拾ヒ歩ク等ハ水天宮様ニ賽錢拾ヒニ出カケルヨリモ更ニ賤シム可キ存在カモ知レナイ。ソレ故コノ位デ良心ノ忠告ニ從フ事ニスル。

滿蒙學術調査研究團規約第八條——團員ハ團ノ行動中ニ於ケル一切ノ發掘物及ビ採集品ヲ私有スルコトヲ得ズ。コノ規約ハ當然今日ノ發掘化石ニモ適用サレネバナラスノデアル。併シ古生物學方面デ必要ト認メナイ位ノ破片ハコノ限りデモアルマイトイフノデ、筆者モ人並ニ「ハンマー」ヲ振ツテ見タガ、頭ガ缺ケタリ、尻ガ切レタリシテ、甲ノ上トイフ割り方ハ思ツタヨリ餘程熟練ヲ要スルモノデアル。ソレデモしゞみがひノ一種ト、しやこトモえびトモツカヌー種ノ甲殻類ト *Lycoptera* (石化魚ノ一種) トノ化石ヲ得ルコトガ出來タ。猶コノ他ニかわもづくノ一種ラシイ淡水植物ノ化石モ多少混ジテキタ。併シ何レモ

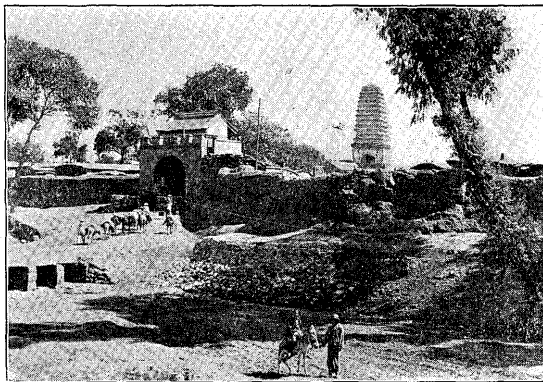


Fig. 40. 朝陽南門外ノ一景

破片程度ノモノデ、團カラ召シ上ゲラレル心配ハ更々ナイ。ソレモソノ筈、「ハンマー」ガイッパシ、使ヒコナセル迄ニハ四・五年ヲ要スルソウデ、篤學ノ士ハワザワザ練瓦工ノ年期ヲ入レルトコト。筆者ハ曾ツテ富山縣カラ庄川ヲ溯ツテ白山山脈ノ裏ノ平家遁世ノ地トシテ、又大家族制度デ有名ナ飛騨ノ白川ノ里ニ旅行シタコトガアルガ、歸途大キナ岩魚^{イワナ}ヲ四十錢ノ割デ十數匹土産物ニ購メタ事ガアル。トコロガ今度ハ本當ニ岩ニナツタ魚ヲ矢張り同じ値段デ買ヒ取ツタ。ソレハ化石採集ノ歸リ途ニ去ル滿人ガ筆者ニ立派ナ *Lycoptera* ノ化

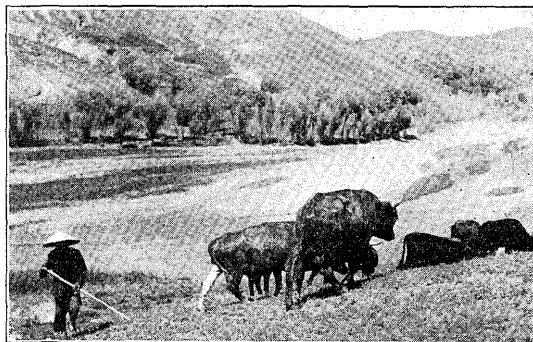


Fig. 41. 世ノ轉變ヲ外ニ老ヒ路ヲ牛ニ托スル老牧夫（著者撮影）

石ヲ示シテ買ツテクレトノコト。早速練瓦工志願ノ望ミヲ棄テ、甚モ早ヤ道ヲ撰ブコトニシタ。目ノ下三寸五分トイフ奴ガ二匹枕ヲ列ベテキルノガ一人前デ一金二拾錢也、天ぶらニナラナクトモソウ高イオ値段デハナサソウデアル。

高粱ノ葉風ハ雨後ノ爽サヲ胎ンデ砂煙リヲ押ヘテクレタコトハ何ヨリモ嬉シイ。オ蔭

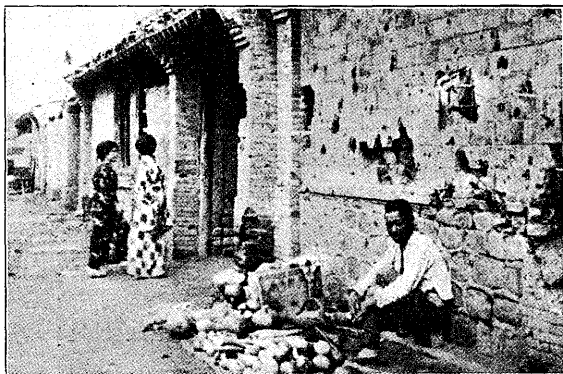


Fig. 42. 彈痕ノ隙間風繁キ荒稼業ニ従事スル日本婦人

デ誰ガ附ケタカ知ラヌガ月見
ケ丘、星見峠ノ標柱ガ目ヲ惹
イタ。木ノ無イ熱河デハ何處
ノ丘デモ月ヤ星ヲ見ルニハ事
缺クキズカヒハ無イニシテ
モ、成程コノ峠ノ月ハ一入デ
アラウ。唯ス、キノ穂ノナイ
熱河ノオ月見ハいぬちがやデ
モ代用ニシナケレバナルマ
イ。但シ團子ノ心配ハシナク
トモ、仲秋月餅トイフ詠ヘ向
ノ代物ガアル。太平房ヘノ下

リ斜面ノ盡クルアタリデ、有犛ノ老牧夫ガ靜カニ蒙古牛ノ後ヲ追ヒ行ク姿ヲ「スナツプ」シ
タ。世ノ轉變ヲ外ニ老ヒ先キヲ牛ニ托シテ歩ミ縮メル老夫ノ心境ヤ如何。大凌河ノ原流ハ涸
澤ヲ左右ニ放チ乍ラ次第ニ瘦セテ行ク。其ノ一ツニ沿フテ葉柏壽ノ町ガアル。「トラツク」
ガ近ヅイテ見ルト、移動式ノ鐵條網ガ摺レ摺レニ路傍ヘ片寄セテアル。日没ト共ニ直チニ
原位置ニ復サレルラシイ。コノ小町ニハ第○中隊ガ駐屯シテ物々シイ固メ振リデアル。聞
ケバ未ダ未ダ物騒千萬デアルトカ。然ルニ何レハ商賣人デアラウガ、着流シノ日本婦人が緋
色ノ裾ヲ荒々シクサバイテ、怪シゲナ行燈宿カラ出入リシテキル。コレハ今ニ始ツタコトデ
ハナイガ、第一線ニ附イテ廻ル婦人連ヲ如何トモシヤウガナイ。闇ノ花ト申スニハ、餘リニ
愛國的デハアルガ。嬌風會ノオ歴々ノ目ノ届カヌ灯影ニ多クノ矛盾ガ横ツテキル。然モ彼女
等ノ腹カラ所謂滿洲美談ガ今モ昔モ變リナク生ミ出ダサレルノデアルカラ、出先キ官邊デ
モ、大體默認ノ形トナツテキル。内地デ食ヒツメタト言ヘバソレマデ、アルガ、彈痕ノ隙間
風繁キ荒稼業ハ決シテ樂ナモノデハナカラウト思フ。去ル軍醫ガ一段ト聲ヲ落シテ筆者ニ
物語ツタコロデハ、殺風景ナ熱河ノ駐屯部隊デハ、軍醫ノ務メノ第一ハソノ方ノ病原菌
ノ傳染豫防ニアルソウデアル。今迄何モ知ラズニ過シテ來タ筆者ナドハ何トイフ事ナシニ
眼頭ガ熱クナツテ來ルノヲ覺エタ。

凌源ハ良イ町デアル。コ、迄來ルト滿洲式ノ所謂蒲鉾屋根ハスツカリ影ヲヒソメテシマ
ヒ、ソレニ取ツテ代ツテ北支那式ノ脊筋ノ通ツタ三角屋根ノ上ニ鬼瓦ガ蒸セ返ル烈日ヲ浴ビ
テ難業ヲ續ケテキル。軒邊ノ裝飾ト云ヒ、垣根ノ積ミ工合ト云ヒ、住ム人々ノ文化ガ一キ
ヲ高マツテキル事ヲ物語ツテキル。

北票、朝陽ト續ケタ熱河ノまたゝびハ凌源ニ來テ愈々其ノ本領ヲ發揮シ始メタ。トイフノ
ハ連日ノ酷暑ト水アタリ等デ、流石ノ勇士ノ面々ニモ多少ノ憂色ガ漂ヒ始メタ。コノ機ヲス
カサズ歌ヒ出シタノガ携行シタ蓄音機デ、流レ出ル勝太郎ノ美聲ガ熱河ノ洋燈ノ窓邊カラ
洩レ響イタコトハ何トイフ歡喜デアラウ。

筆者ハソコデカウ考ヘタ。戰モ一段落付イタ第一戰部隊等ヘハ、蓄音機ヤ、ラヂオヲ配布

シテ、モツト高尚ナ娛樂ト慰安ヲ與ヘテ上ゲタイモノデアル。

初メハ蓄音機携行ニ反對シタ人モアルガ、熱河ニ這入ツヲ始メテ其ノ必要ヲ痛感シタ。

凌源着ノ翌日、後デ曆ヲクツテ見ルト、ソレガ8月ノ13日、地質學、古生物學ノ一行ヲ北方三里餘リナル王家店ノ部落ヘト、化石採集ニ送り出シテ、生物

班ノ面々ハ町ノ背後ノ要害ノ地ヲ占メタ草帽子山ニ採集ノ軍ヲ向ケタ。町ヲハツレテ、足ニハ殆ンド感ジナイ程ノ緩斜面ニカ、ルト、深イ一條ノ地隙ヲ隔テ、さねぶとなつめノ純林ガ暫ク續ク。コンナ事ハ熱河行、後ニモ先ニモ、唯一度デアルカラ特筆シテ置ク。

登ルニ從ツテ草帽子山ハ讀ンデ字ノ如ク草帽子山デアアル。中腹カラ凌源ノ町ヲ見下スト、其ノ手前ニ赤十字ノ旗ヲ掲ゲテ固ク門ヲ鎖シタ異人館ガアル。熱河戰

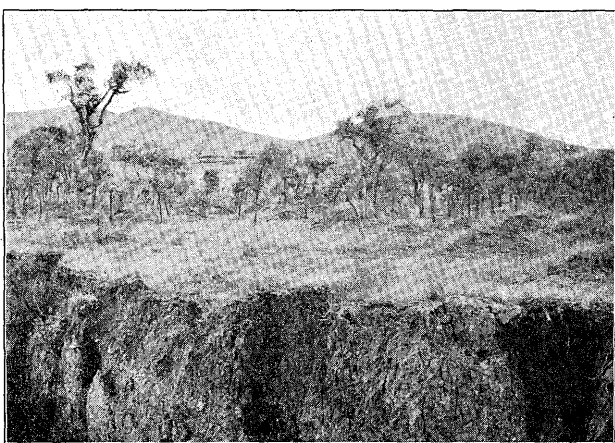


Fig. 43. 凌源背後地ノさねぶとなつめノ純林 (著者撮影)

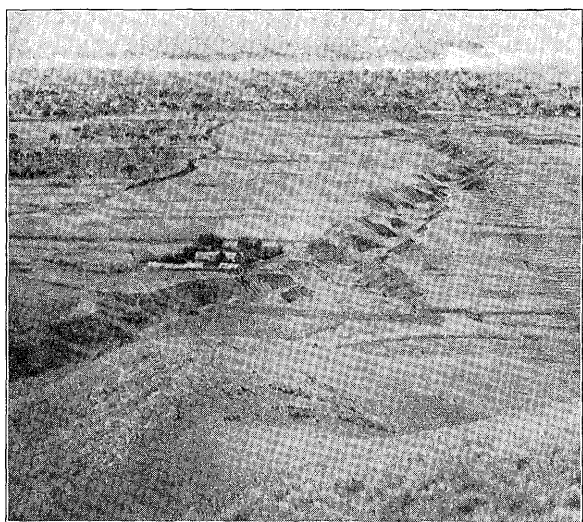


Fig. 44. 草帽子山ヨリ凌源市街ヲ望ム、山麓ニ見エルガ「カトリック教會」(著者撮影)

線ニ晒サレ乍ラ彈痕一ツナイノハ、敵味方共餘程彈道ヲ曲ゲテ戰ツタコトガ判ル。ソレモ道理或ル「カトリック」ノ教會デ、今モ猶ホ、神ニ身ヲ委ネタ宣教師ノ一家族ガ住ンデキルトイフカラ思ハズ頭ガ下ル。實際其ノ獻身サガアツテコソ、人ノ信仰ヲ得ルコトモ出來ヤウ。吾々生態學者ノ仲間デハ「猫ニまゝたび、荒地ニよもぎ」ト言ツテ、よもぎノハビコルトコロニハ録ナモノハナイ。併シよもぎダトテ、ソウ馬鹿ニジタモノデナイ。日本全國デ草餅ニ用フルよもぎノ産額ハ何處ノ統計ニモ出テ居ナイカラ知ル宜モナイガ、「ソビエート」ノ「トルキ



Fig. 45. 「サントニン」ヲ含マヌよもぎ—いはよもぎ
(著者撮影)

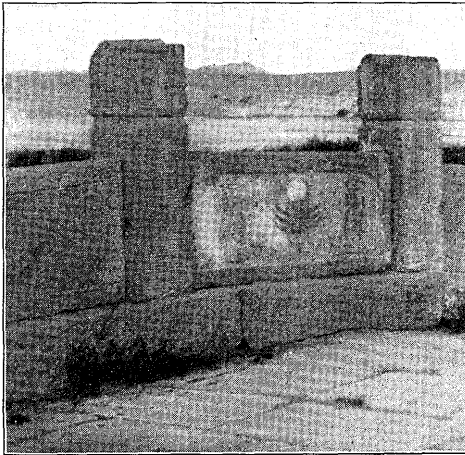


Fig. 46. 蠍ノ浮彫ヲ彫ム巴林橋ノ欄干 (著者撮影)

ス」地方特産ノしなよもぎト來タラ豪氣ナモノデアル。ソノ蕾カラ抽出サレル「サントニン」ハ無類ノ「蟲下シ」トシテ世界ニ其ノ名ヲ謳歌サレテキル。若シ「ソビエート」外交ノ腹黒サヲ以ツテ「サントニン」ノ偉効ヲ疑フ者ガアツタトスルナラバ、ソレハ思ハザルモ甚シイモノデアル。何トナレバ昔カラ「紺屋ノ白袴」ト言フデハナイカ。併シ彼ノ國デハコレヲ其ノ財源ノ一ツニ數ヘテキルノデ、コノ植物ノ海外ヘノ持チ出シニハヒドク神經ヲトガラセテキル。何デモ軍隊デ嚴重ニ警戒シテキルサウデアル。ソコデ筆者モ飛ンダ佛心ヲ出シタモノト苦笑ヲ禁ジ得ナイ。『蒙古地方デハ天地開闢以來西北風ガ多イ。ソレコソ何シナ風ノ吹キ廻シカデ、しなよもぎガ飛ンデ來ナイトモ限ラナイ。否他ノ種類ダトテ「サントニン」ガ澤山含マレテキサヘスレバ大シタ發見デアル。』コノ意味デモ筆者等ノよもぎ探索ハ眞剣ナモノデアツタ。老人腰デノよもぎ調査ノ一時ハ脊筋ニ靦面ニ應ヘテ來タ。ソコデ手頃ナ石ニ腰デモ下シテ一息ツギタイノデアルガ。其ノ前ニ缺ク可カラザル準備工作ガ入用デアル。トイフノハ石ノ下ニハ必ズ一匹ヤ二匹ノ蠍ガ安眠シテキルノデ、ウツカリ御機嫌ヲ害シテハ事面到デアル。夢々手ヌカリガアテツハナラヌノデアル。然ルニコノ蠍ノ「アルコール」漬ガ下ノ病ニ効クトカ、効カストカデ、同行シタ通譯ノ、滿人巡捕ガ盛ニ捕ヘテハ袋ニ詰メテキル。彼氏ノ曰ク、歸京後、(其ノ居宅ハ新京ニアリ)最愛ノ妻君ニ捧グルトカ。流石ノ筆者モイサ、カ毒氣ヲ抜カレタ形デアツタ。

蠍ノ山、草帽子山ノ採集ヲ終ヘテ眞一文字ニ駈ケ下ルトまうこおみなへしノ黃花ガ待チエ顔ニ咲キ亂レテキル。第二期鐵道工事ノ地馴シガ郊外ノ墓地ト遭遇シテ茶褐色ニ古ビタ白骨ガ白日ノ下ニ踊リ出テキル。コレハ滿洲風景トシテモ心ナキ業ノ限りデアル。

一シキリ冷エタ西瓜ニ渴ヲ醫ヤシテ「カメラ」片手ノ丸腰デ宿ヲブラリト飛ビ出スト、アテドモナク町ハヅレニ來テシマツタ。ソコニハ古ビタ寺院ガ門ヲ固ク鎖シテキタガ、細目ニスイタ潜リ戸ニ手ヲカケルト、意外ニモ入レ齒ノ如クニホロリト開イタ。奥ノ方カラカスカナウメキガ上ツテクル。凄慘ト獵奇ニ滿チ滿チタ五尺ノ全身ガ栗毛立ツテ來ル。併シコノ儘引キ返スコトハ如何ニモ心残りデア。拔キ足、サシ足デウメキヲタヨリニ近ヅクト廢寺ノ裏庭ニ出タ。然モソコニハ第二ノ扉ガシマツテキル。確カニコノ中トアタリラツケタモノノ薄氣味ノ惡イ



Fig. 47. 草帽子山ノまうこみなへし（著者撮影）

コト限リナシデア。頃合ヒヲ見計ラヒ渾身ノ勇ヲ鼓シテ颯ツト押シ明ケテ身ヲ片隅ニ寄セルト、塙ノ内ニハ生血ヲ吸ツタ大刀ヲ片手ノ大男ガ突然ノ闖入者ニ驚キアワテ、棒立チニツキタツタママ、目バカリバチバチト目瞬イテキル。筆者モ「カメラ」片手ニ暫シ無言。ヤガテ件ノ男ガペコリト頭ヲツツ下ゲテ愛想ヨク笑ツタノデ、筆者ノ氣モ漸ク靜マツテ來タ。見テキルト雜作ハナイ、山羊ノ四ツ足ヲ縛シテ深ク掘ツタ孔ノ端迄引キツツテ、角ヲ押ヘテツキ出タ咽喉ヘ大刀ヲサツトヒラメカス。ドツ、ドツト迸ル血潮ト共ニ斷未魔ノウメキガ舉ル。血ヲ絞ツタ遺骸ニハ少女トモ少年トモ別ラヌ小供ガトリツイテ、足ノ膝ノトコロニアケタ孔ヲロニクワヘ、空氣ヲ入レテハ細イ棒デタ、キ、又空氣ヲ入レシテ、空氣枕ノ如クニ膨マセル。コレヲ暫クオイテ、ヤガデ皮ヲ剥グ。一ノキリ仕事ヲ濟シタ後ノ小供ノ顔ハ凡テノ童心ガ生血ニ塗リツブサレテ、アケニ染ツタ唇ハ耳モトマデモ裂ケテキルヤウニムゴタラシイ。朗デアルベキ十一二才ノ小供盛リヲト一掬ノ涙ヲ禁ズル譯ニハ行カナカツタ。

凌源名物山羊肉ヲ煮ルタ餉ノ煙ノ厨カラ立昇ルトソコニハ又シテモ二重寫シノ寫眞ノヤウニ小供ノ顔ガ浮ブデハナイカ。

夜モ少シク更ケテカラ、懷中電燈ヲ頼リニ數町離レタ地質班ノ宿舍ヲ訪レヤウトストル半町モ行カス内ニ物陰カラ「誰カ」ト一聲鋭ク誰何サレテシマツタ。何シロ此處ハ未ダ准戦線トイフノデ、三度呼ンデ返事ガナケレバ、切り捨テ御免ノ徳川時代ノ舞戾ラネバナラヌ。偕テ少々位膽魂ノ据ツタ者デモ、三尺ノ秋水ナラヌ、一尺五寸ノ銃劍ガ鼻先ニヒラメクト、一度睡ヲ飲ミ込シテマナケレバ返事ガ出難イコトハ經驗ノナイ人ニハ一寸想像モツキ兼ネ。ソレデモ二度目ノ「誰カ」ニ間ニ合ツタノデ先ヅ臺座ヲ離レル必配ハ解消サレタ譯デ、眞ニ御同慶ノ至リデア。

地質班ノ某氏ニ土産話ノ催促ヲスルト「マルコポーロ」ノ東洋見聞録ニ出ル黄金ノ瓦デハナイガ、王家店ノ部落デハ土塼ト云ヒ門柱ト云ヒ魚類ノ化石ヲソノマ、瓦代リニ使用シ

テキルソウデアル。コノ話が第二ノ「**ロンブス**」ノ奮起ヲ促スコトニデモナレバ、モツケノ幸デアルト筆者ハ大ニ期待ヲカケテキル。猶コノ王家店ヨリ更ニ北方三里餘モ行クト熱水湯トイフ熱河ニハ稀シイ温泉池ガアル。何ンデモ一時ハ七十二棟ノ浴舎ガ軒ヲ連ネテ賑盛ヲ極メタサウデアルガ、今ハ膝行跛者が僅カニ不自由ナ半身ヲ漬シテキルトイフサビレ方デアル。

凌晨ノ一夜ガ無氣味ナ靜ケサノ裡ニ寢靜マルト、夢デハナイト思フガ、晝間ノ可笑サガコミ上ゲテ來ル。朝陽ノ下リ斜面デ蛇ヲ見付ケタト報告シタトキ、動物班ノ某氏ハ今度見タラ是非タノムトノコト。ソウダトアレバ、コノ次ハト覺悟ノホゾヲ決メテキタ矢先デアルカラタマラナイ。マツシグラニ追ヒ詰メテ尻尾ヲ擱ンデ垂シ上ゲタノガ三尺豊カナしゆれんくなめら。但シ其ノ時ハ青大將トバカリ思ヒ込ンダ程、内地ノソレニ酷似シテキル。シテ見レバ毒ノナイノハ言ハズト知レタコト。早速事務引繼ギヲ了ヘヤウト某氏ニサシ出スト。アツサリ首筋ヲ擱ンデ「ボケツト」ヘトノ筆者ノ期待ハ眞向カラ外レテ、モヅモヅト探リ出サレタノガ晒馬綿ノ布袋、然モ其ノ口ヲ破レヨトバカリ廣ク擴ゲテ、其ノ又片隅ヲソツトツマンデサシ向ケラレタツ、マシヤカサニハ、筆者ハ今更ニ我が身ノ粗暴サヲ思ヒ返シテ、見合ニデモ行ツタヤウニボツトシタ頬ノホテリヲ禁ズル譯ニハ行カナカツタ。

「ほとゝぎすアノ聲ヲシテ蛇ヲ食ヒ」。

(續ク)

〇みやまちどめぐさノ年越し

東京ノ西空ニ起伏スル淺山ニハ各所ニみやまちどめぐさ (*Hydrocotyle japonica* MAKINO) ガアルガ、ソノ内ノ一山デ近來採集地トシテ名アル刈寄山附近ノ谷カラ物好キニモ東京ニ持ち來タシテ植エタモノデアル。夏ニハ他ノ同屬種ニ較ベテ太イ莖ガ四方八方ニ出テ、餘リ地面ニ接着セズニ伸長シテハ端正ナ感ジノ葉ヲ並ベル。一寸風情ガアル等ト高ク買ツタラ御禮ノ積リカ面白イ事ヲ教ヘテ呉レタ。トイフノハ秋モ半バヲ過ギルト地上ノ莖ノ先端ハ節間ノ短カイモノニナツテ急角度ニ地中ニ突入スル。1cm 近ク入ツテカラ再轉シテ水平ノ位置ヲ取り長サ 2cm 内外ノ白色多肉ノ一體トナル。ヨク見レバ極メテ小形ノ葉狀ノモノガ先



ニ近ク集リ附イテ居ル。コレガ出來ルト地上ノ部分ハ一切ヲ擧ゲテ嚴冬ノ霜雪ノ前ニ枯レハテシマフ。翌春、コノ部分ノ先端ハ延ビテ直立シ地上ニ

顔ヲ出スト間モナク再三分岐シテ節カラハ根ヲ下シ再ビ夏ノ形態ニ歸ルト越冬シタ部分ハ枯死シテソノ役ヲ終ルノデアル。ちどめぐさ (*Hydrocotyle sibthorpioides* LAMARCK) デハ年中地下莖ガアツテソノマ、冬ヲ越スノニ較ベテ、コノ方デハ冬ニハ莖ガナイ許リデナクカウシテ生存部分ハ絶エズ進ンデ行キ各部分ハ一年トハ生キテ居ナイワケデ、所謂多年生トハ趣ヲ異ニスル。

(前川文夫)